

1 学校教育目標

2 目指す姿（学校像・幼児児童生徒像・教師像）

**心豊かで たくましく生きる子どもの育成**

「集うものすべてが学び合い、育ち合う場としての学校づくり」  
 ○「学び」を中心とする授業の創造を通して、知を創造し豊かな人間性を育む学校  
 ○よく聴き、進んで学ぶ子ども（学び方）○助け合い、支え合い、思いやりのある子ども（生き方）○善悪を判断し、心身共に健やかで最後までやり通す子ども（行い方）  
 ○児童とともに成長する教師 ○前向きに取り組み誠実で同僚性を大切にする教師

3 現状と課題

本校の児童は「学びの共同体」に取り組んで7年目を迎え、落ち着いた学習態度や相手の話に耳を傾け、考えを繋いでいったり教え合ったりすることができるようになった。学力の向上にも成果が見られるようになったが、表現力において、どのように表現してよいのか分からず活発に意見の交流ができないという課題がある。あいさつも自分から進んでする児童が少ない。体力においては昨年度の筋力がある程度ついてきているので、各学年児童の実態に沿った体力アップを目指す方が効果的であると考えている。

4 目標

[中期経営重点目標]		[評価指標]
①よく聴き、進んで学ぶ子どもの育成 ②道徳性・社会性の育成 ③体力・運動能力の向上		①②→H24年度末アンケートで教職員、児童とも90%以上 ③→H24年度、各学年体力テストから課題とした項目の数値を上回る
短期経営重点目標（2年目）	評価指標	主な具体的方策
自分の考えや思いを言葉で伝える力をつける。	「自分の考えを伝えることができる」児童の割合を90%以上にする（研修部の児童アンケート）	教師がしゃべりすぎないように心がけ、子どもの思いや考えを自分の言葉で語るよう、じっくり待ったり支援したりする。（研修部提示の研修計画） ----- 校内の授業研究として一人1～2回授業をし、全員で振り返りをする。（研修部提示の研修計画） ----- ペア学習やグループ学習を取り入れ、子ども同士が聴き合い、学び合う場を設定する。（研修部提示の研修計画）
気持ちのよいあいさつをする力を付ける。	「あいさつができるようになった」児童の割合を80%以上にする（学年末児童アンケート）	教職員が率先して毎日「笑顔であいさつ」をする。 ----- 学校朝会、生活月目標、朝の会、道徳の授業等であいさつについての指導をする。（生徒指導部、教務提示の計画） ----- 相手に気持ちを伝えるあいさつの仕方を啓発していく。（放送、視聴覚機器等を活用）
運動する機会を作ることで、体力の向上を図る。	体力テストから課題となった項目の数値が、次年度には上回る。（各学年で目標数値を設定する）	児童の運動する機会を確保するため、毎週月水金の大休憩に外で遊ぶようにする。（保体部提示の体力づくり年間計画） ----- 11、12月に「全身持久力」を高めるためのジョギングタイムと、1、2月に「筋持久力」を高めるための縄跳びタイムを毎週2回大休憩に取り組む。（保体部提示の体力づくり年間計画） ----- 体力テストから課題となる項目を学年毎に決定し、その項目の力を向上させる準備運動を体育の時間に毎回取り入れる。